

「2024年度バルセロナ大学スプリングスクール派遣報告書」

京都大学文学部1年 金澤 奈津

① 学習成果

今回の派遣の前は、海外に行くことに対して高いハードルを感じていた。例えば、言葉が通じるのかどうか、慣れない土地で生活できるのかどうかといった不安があった。しかし、スペインに行った後はそれほど心配する必要はないと感じた。もちろん、スペインが世界各国と比べて比較的安全で衛生面も整備されているので快適に過ごせたということもあったと思う。大学での学習について、語学の学習という点では、スペイン語とカタルーニャ語の授業時間数が少なく、基本的な表現を実践形式で学習した。やはりスペイン語やカタルーニャ語は語順が英語と似ているため、日本語で習うよりも英語で習った方が理解がスムーズになると感じた。また、自分の母語以外の言葉で外国語を学ぶという機会はほぼ初めてだったので新鮮であったし、自分の英語力で理解できるという自信がついた。国際理解への意欲について、今回のプログラムでバルセロナ大学の講義に参加するというものがあった。そこは留学生が数多くいて国際色豊かな授業であった。私はそこでのディスカッションで2人の中国人の留学生と話したが、互いの文化について理解し、良いところは讃えあい、自分の文化と違う文化にはなぜそのようなのか質問しあったりして深く理解しようとすることができた。例えば、日本人が礼儀正しすぎるということに対してどうして国民が全体的にそのような傾向を持つのかを議論した。このディスカッションを通して、日本と中国間の問題は国家の問題であって、個人も同じ考えや傾向を持っていると決めつけてはならないと思った。これらの経験を通して、思ったよりも海外でコミュニケーションが取れるということがわかった。また、海外への不安が軽減されたことで、長期の海外留学に対する興味も出てきた。これまでは英語しか話せないで英語圏に留学したいと考えていたが、その国の言葉が話せなくても生きてはいけるとわかったので、英語圏以外の国への留学も視野に入るようになった。これによって、言語による制限を越えて、自分が本当に学びたいことを学べる大学を選ぶことができるようになる。今回の留学で、次回の留学の選択肢が広がったように思う。

② 海外での経験

バルセロナでは、ガウディの建築を見る機会が非常に多かった。豪華な装飾が建物のあらゆるところに散りばめられていて街を歩くのが楽しかった。

③ プログラム内容

ガイドの方がついてバルセロナの街を案内してくれるツアーが良かったと思う。やはりバルセロナは建築の街であるし、ただ歩いていただけでは気にも留めないものが歴史的に重要なものであったりするので、説明してもらえるのはありがたかった。最終プレゼンテーションについて、スペインと日本の比較をしたものを用意していたが、交流する学生にスペイン出身の方がいなかったため、お互いに予想しながらの議論になってしまい少し勿体なかったと感じる。

④ 進路への影響について

より海外留学に行きたいと思うようになった。海外へのハードルが下がったことが私の今回のプログラムに参加した大きな意義であると思う。